

日吉大社自然観察倶楽部通信

No.18 草木染め   きのこと染め  H24年11月3日

秋晴れの中、日吉会館の中で、草木染めときのこと染めを7人で行いました。草や木の皮から煮出した汁で糸や布を染める技術を、草木染めと言います。私たちは以前に、モミジやカツラ・柿の葉・柿渋で草木染めを行いました。また、ヒイロタケ・コツブタケを使ったきのこと染めもしています。(⇒通信2と15を参照)

今回は、桜の葉・松葉・ヒイロタケ(きのこ)で染め物に挑戦します。

染めたい布に、事前準備として、木綿の生地に豆汁(ごじる)か牛乳を染み込ませ、乾かしておきます。これは、布を染めるために動物性タンパクが必要なためで、絹の生地なら必要ありません。また、布に模様をつけることも出来ます。ゴムや割り箸などできつく縛ると、その部分だけは色が付かず、(白色の)模様が出来ます。工程は以下の通りです。

- ① 染める材料を細かく刻む
- ② 助染剤に布を15分つける
- ③ 材料を20分程煮出す ⇒ 煮汁をこす
- ④ 湯通しした布を煮汁に入れ、15分煮る
- ⑤ ミョウバン(媒染液; ばいせんえき)につける
- ⑥ 布をまた10分煮る ⇒ 干す

上の写真(材料)・下の写真(煮汁)



↓ 桜の葉



↓ 松葉



↓ ヒイロタケ



前ページの写真は、**染める材料とその煮出した汁**(③の工程)です。桜も紅葉しますので、赤くなった葉っぱを集めました。煮汁は飴(あめ)色という感じでしょうか？松葉は、松の葉そのものよりも少し薄い黄緑色になりましたが、コショウのようなスパイス系の匂いがしました。松ヤニの影響か、少し濁っています。最後にヒイロタケは、オレンジから茶色の煮汁が出ました。煮出してみると、元の材料の色と決して同じにならないことが分かります。



左の写真は⑤の**ミョウバンにつける**工程です。ミョウバンとは媒染(ばいせん)の一つで、染めた色を定着させます。自然な色に染まるのが、ミョウバンの特徴です。ちなみに写真の布は、松葉で染めたものです。濁った黄緑色で布を染めてみると、灰色に染まっています。桜の葉は茶色・ヒイロタケはオレンジ～黄土色に染まりました。

また、色々な草木染めに挑戦していきたいと思います。日吉大社にはまだまだ紹介していない植物があり、色があるのですから。

参加者は
佐方夫妻・辻田夫妻
今橋さん・杉山さん
田中



日吉大社自然観察倶楽部のHPが出来ました。今までの通信や活動予定などを載せています。
※日吉大社生まれの桜と言われる日吉桜のサポーター・募金を募集しております。詳しくはHPから。

日吉大社自然観察倶楽部HP

<http://hiyositaishasizenkansatu.jimdo.com>